



県平和委など
日米共同訓練と航空祭中止を申し入れ

8月29日から9月2日まで航空自衛隊小松基地で実施された「日米共同訓練」（米軍三沢基地から6機が参加）に対し、8月24日に石川県平和委員会など4団体が小松基地司令に中止を求めて申し入れを行いました。

同時に9月19日の「小松基地航空祭」の中止要請も行いました（申し入れ文は裏面に掲載）。

米兵のコロナ感染
防止対策に不安

その際、新聞報道になかったことが判明しました。2019年までの日米共同訓練では、米兵は小松基地内の施設に宿泊していましたが、今回はパイロットや整備士ら90人は基地外の宿泊施設を利用し、防衛局職員も同じ施設内に宿泊することになっています。

夜間の外出の際は、防衛局職員が付くというの



④小松市へ要請文を手渡し柴原事務局長＝右。
⑤日米共同訓練を空港展望デッキから監視する



は従来通りですが、コロナ感染防止のための行動制限は特になく、直前の検査や陰性証明を求めるまで踏み込んでいません。

共同訓練の期間中、県平和委員会は小松空港展望デッキで監視活動を行いました。

水害被災地を横目に「航空祭」
市民感覚とズレている

航空祭の内容の詳細は決まっておらず、米軍機の展示があるかは不明です。F35Aの展示も同様。

8月上旬の水害被災の復旧に取り組んでいる市民からすれば、被災者やボランティアが復旧作業を行っている横で「祭」を実施し、アクロバット飛行や轟音をたてて戦闘機が飛び回る…こんな時に何を考えているのか？というのが市民感覚ではないでしょうか。

(柴原 和美事務局長)

日本平和大会
11/26~27日
オンラインで

1日目 午前・開会集会。
午後・分散会

2日目 午前・閉会集会
現在、県内で設ける視聴会場制定を進めており、決まり次第お知らせします。

会員の皆さんに大会パンフをお届けしますので、学習会などで活用ください。

アン 노력을思い浮かべました。

「核抑止」という「考え方」と言うよりも「核兵器にしがみつくり屈」が核兵器超大国ロシアの「使用威嚇」で完全に破たんしたことを確認しあつた世界大会だったともいえます。

いま開催中のNPT条約再検討会議では、「核兵器廃絶にみんなで踏み出すしかない」と世界に宣言すべきです。

それにしても、わが日本の岸田首相の姿勢は許せない。被爆者に前にしたあいさつで、核兵器禁止条約にもNPT条約6条の核兵器廃絶の約束にも一切触れない姿には「人間性の欠如、すら感じます。一方、核戦争＝人類の破滅を阻止するために世界のたたかいはさらに大きく発展するだろうと確信を持ちました。

原水爆禁止石川県協議会
事務局長 新井田 義弘

人類の安全保障は核廃絶！

原水禁世界大会に参加して

県原水協の事務局長を受けてから3回目の8月、やっと原水禁世界大会がリアル参加で開催され、なんと私は34年ぶりの参加です。

原爆が落とされたようなウクライナの廃墟の映像を見るにつけ、どんな事情があっても どんな理屈をつけても 戦争はすべきではないしロシアの侵略は許されないと、平和行進の際にも「ウクライ

ナ支援のつどい」を開催して参加を呼びかけてきました。

この世界大会では「ウクライナ危機を考える」の分科会の運営委員もやり、ウクライナとロシアの現地の話詳しく聴くことができました。「戦争は一旦はじめたら終わらない。だから、戦争にならないようにすることが決定的に大事なのだ」との発言を聞き、アセ

- ロシアは侵略やめよ。国連憲章・国際人道法を守れ
- 団結を壊し戦争を長引かせる軍事ブロック的対応やめよ
- 内心の自由を侵害し、安倍政治を美化する「国葬」反対